

第 1 回 学校運営協議会

令和 4 年 4 月 27 日（水）14 時 30 分

出席者

会長	妹尾 久雄
副会長	新井 利勝
コーディネーター	小野 修平
委員	鈴木 綾
委員	友田 弓子
委員	宮本 尚登（校長）
委員	矢崎 慶（副校長）
	海老塚京子（教員）
	小川 壮司（教員）
	宮崎 孝平（教員）

市教委委員会事務局（教育企画課、社会教育課、教育指導課）

1 校長あいさつ

次第に沿って進めますが、会長、副会長選任まで、私が進行させていただきます。

2 委員・自己紹介

3 会長・副会長選任・あいさつ

4 令和 4 年度学校経営方針の承認

本協議会は、この学校経営方針について全員一致で承認する

- ・「生徒の学習意欲を向上させる（授業の工夫）」
「生徒の個性が発揮されるようにする（目立たない生徒も活躍できるようにする。）」
を軸に学校経営を行う。
- ・学校行事について、当面は、感染対策を強化して実施する。
 - （1 学期の運動会は平日開催）
 - （3 学期の合唱コンクールは、実施方法等を工夫して 3 年ぶりに再開）

5 令和 4 年度の地域学校協働活動について

（1）学校からの説明

昨年度は、ペンキ塗り、星空ピクニック、VR バンジージャンプ、プロジェクシ

ョンマッピング、放課後ステイルーム等、多くの取組を地域の皆様に実施していただいた。

子どもたちはありがたく思っているが、一方、誰がどのように関わっていただいたのかが見えにくい形となった。今年度は、学校から地域に出て、顔の見える関係にしていきたい。

今の中学生が地域を担う人材として、地域の方と直接交流する場を設けていきたい。今年度の地域学校協働会議は、地域の方と「話す」「一緒に活動する」「顔見知りになる」をキーワードに実施していきたい。

今後、社会教育委員の委員の皆様からの提案資料を参考にしながら、熟議を行っていきたい。

令和4年度は。以下の取組を考えている。

- ①学校応援団の拡充
- ②放課後ステイルームにおける卒業生による協力体制の構築
- ③令和2年度実施のリアル救出ゲームを参考にした地域の方々との交流活動
- ④文理台公園での花火大会への協力
- ⑤総合型地域スポーツクラブ「ココスポ東伏見」と連携した部活動の実施
- ⑥その他

(2) 令和3年度からの継続事業について

①学校応援団（ペンキ塗り）の活動

委員： 令和4年2月23日（祝）と2月26日（土）の2日間行い、延べ28名の参加であった。

校舎玄関の表面をきれいな緑で塗り直した。卒業式・入学式に向けてきれいな玄関で送り出し、迎え入れたいという気持ちの下、単に顔見知りの方々に塗るのではなく、お力添えいただける方に市報に掲載して募集した。正直なところ、どちらかというとも中学校は小学校と比較して、地域との関りが希薄で地域団体が少ないため、難しい中でどのような改善策があるか考えて1回目の募集をした。グーグルフォームをQRコードで読み取ってもらい、明保中の学校応援団のメールアドレスに繋がるようにして申し込みを受け付けた結果、全員市報を見て申し込まれた。現役の生徒会長、卒業生の保護者、卒業生（大学1年生）、お子さんは卒業生ではないが学区内の住民として役立ちたい、という方々により、1日目は計16名、2日目は計12名でペンキ塗りをした。

午前、午後の終わるタイミングで、その日の感想を一言ずついただいた。事後アンケートからは、

- ・また活動があれば、是非参加したい
 - ・今後の活動の企画、準備から手伝ってもよい
- という声もあった。

第1回学校応援団としては、十分やれたと思う。

第2回も引き続き、新しい仲間を迎え入れながら、今回手伝っていただいた方も細く長く繋いでいきたい。1回目の残りのペンキが半年くらいであれば、保管して使用できるとのことで、その残りを使い、今度は玄関の裏面のペンキ塗りを学校応援団第2弾として、実施方法を考えていきたい。

校長は学校から地域へとおっしゃっていたが、学校応援団としては地域から学校へ、ペンキ塗りをきっかけにして集まった方々と一緒に子供たちや学校のために、どのように展開させていくか考えていきたい。

委員： ペンキ塗りをして、生徒さんの印象はどうか。

校長： きれいになったのはみんなわかるし、地域の方がやってくれたということも担任から話している。しかし、先ほど申し上げたとおり、顔が見えない。1回目は、保護者や生徒への呼びかけや学校内でのボランティアの募集をしなかった。その理由は、検証という意味もあり、市報のみの募集で、何人集まるかを確認したかった。市報だけで一人も集まらなかったら、別の方法で検討する予定だったが、ありがたいことに人数が集まった。ということは、これから本取組は広がっていく可能性があると思う。2回目のペンキ塗りは同じ方法で募集するのか、あえて学校・生徒でやるのか実施方法を今後検討していきたい。

委員： 学校応援団としてやるなら、私たちが企画していくことになる。

委員： 生徒・職員があまり関わっていない。これが悩みどころである。

委員： 今回参加してくださった方に、もう一回声をかけるか。

委員： そうでなくて、市報に載せるか。

委員： もっと広く声をかけるということか。

委員： 市報で新たに募集する方法もありだし、同じメンバーでもありだと思う。

委員： 前回と同じ方に来ていただくのは、時期的に可能か。

委員： 暑くなると大変だということを考えると、6月が妥当かと前回話した。

人数が多くても、というところもある。生徒さんに参加してもらう時にどのように説明するか考える必要がある。

委員： 市報に載せると、日程的に先になる。

委員： 市報に関しては、今回は当たったもののちょうど良い人数でお断りもしなかった。しかし、2回目で、暑くなって適切な人数集まるかは、蓋を開けてみないとわからないし、市報を定着させるとしても、もう少し規模の大きい募集

が必要になった場合、それだけで集まるかわからないし、新たな仲間を集めたいという部分もある。

また、今回手伝ってくださった方々と細く長く繋げていきたいということもあるし、呼びかけをすれば日程が合えば来てくださると思う。

新しい方を呼ぶのか、今繋がっている方々を大切にするのか、生徒や先生方と交流するなどいろいろな要素があると思う。

委員： 新しく募集した時に、大量にお断りするのには申し訳ない。募集するならペンキ塗りが無い内容も含めて固めて、昨年度の方はペンキ塗り、新規の方は違う内容と、もう少し整理する必要がある。

委員： ペンキ塗りはゴールではなく、通過点だと思う。最終的に学校応援団として生徒のため、学校のためとやっていく地域の方を、どのような規模でどのようにまとめていくか考えたい。

委員： そうすると今日で議論は終わらないと思う。そもそもどんなことが必要なのか、ペンキ塗り以外にどんな活動が必要で、どんな方にやってもらいたいのか議論していない。時間がかかると思う。じっくり話し合っ、次回の学校応援団に繋がりたいが、ペンキの使用期限がひっかかる。

委員： ペンキ塗りは繋がっている方や生徒で今回企画を決めれば、日程内で調整させてもらって準備を進める。

委員： その方が良いと思う。

委員： 生徒の募集はかけた方が良いと思う。

委員： 是非、一緒にやりたい。あまり人数が多くても正直困るが。

委員： 生徒が多かったら、別の機会に回ってもらえば良い。生徒用チラシをできればグーグルフォームで作っていただきたい。生徒はタブレットを持っているので、アナログでもどちらでも良い。

委員： 前回参加しくださった方と生徒に呼びかけして、そのメンバー中心に6月から7月に実施できるように進める。

委員： どこまでやるのか。

委員： 玄関の裏を塗る。他の場所を塗るかどうかは、集まった人数と残っているペンキの量で考える。

②放課後ステイルーム

委員： 昨年度は、コロナの関係で、2学期の期末テストの前から3日間開催して、延べ44名の参加があった。うち3日間通しての参加は5名、2日間は4名が参加した。3学期学年末テストの：前は開催が難しかった。

今年度は、1学期は期末試験の前、2学期は中間・期末の前、3学期は学年

末の前に開催させていただきたい。

基本的には学校の自習室で行っているが、昨年度からコミュニティ・スクールの中に関わっているものと、育成会の方で受け付けさせていただいている。長期の休みに何らかの形で交流ができるとよい。夏休みについても何か企画できたら良い。具体的な案があれば出していただきたい。

卒業生の先輩に来てもらえたら魅力的だが、事前申込制ではないので、来ていただいたのに生徒が来なかったという可能性もゼロではない。

どんな形が一番良いのか考えるところである。

自宅に環境が整っていない子や、先生方からみて参加させてほしいと思う子に声をかけていただいたのがきっかけで自習室が始まったので、モチベーションが上がってくれたら良いと思う。

卒業生と良い形で繋がるには、どのような方法で進めるのが良いかご意見いただきたい。

先生方は卒業生と繋がっていらっしゃるのか。

教員： コロナで成人式をできなかった今年21歳になる子たちが、今年、市役所の方で21歳を祝う会を開催することになり、卒業した各中学校が会場で行われる。通知をもらった学生が喜んで、恩返しをしたいと言ってきた。会場の片付けや掃除を提案されたが、それは教員でもできることなので、例えば校外学習の手伝い、総合学習で大学生の視点からの中学生へのアドバイスや勉強を教える等、他の学生にも声をかけて繋げるなど、直接中学生に関わることをお願いしてもよいのかなと思った。

委員： 大学4年生だけか。

教員： 大学4年で、今年就活が終わって、就職に向けて一段落して少し自由になるが、サークルやアルバイトもあり、時間が取れないかもしれないが、一日1、2時間など事前にわかれば、都合つけてもらえる。これで繋がれると思う。今、大学4年生の子は卒業していくが、この取り組みが残っていれば後輩、次の代に受け継がれる。今、お世話になった中学生が大学生になった時に、同じように関わってくれれば卒業生との繋がりができる。

委員： すごく良い。自習室として考えていたのは、6月の期末テストの前だが、この取組を先生の方から言っていただくことはできるか。

教員： 人数・内容などの情報を伝えれば、時間に余裕があるOB・OGが集まると思う。

委員： 塾のアルバイトをしている人はたくさんいると思う。聞かれたことに対して何でも答えられる人は少ないと思うがお願いしても大丈夫か。テスト前に来てもらって、家庭教師的に意味のある内容で楽しく勉強できるよう教えてもらいたい。

委員： 塾の先生ではないので、大学生に自習室にいてもらって、わからない子が手を挙げたら一緒に考えるくらいで良い。そのような取組をやっている塾もあるが、いつでも質問できるように自習室で控えてもらう程度でないと、大学生の負担が大きくなってしまう。

委員： 逆に、声掛けして来ていただいたのに、何もしないでいてもらうのは辛いし申し訳ない。程よくやり取りがある方が良い。

委員： 平日全く授業を入れてない大学3、4年生は多いと思うが、1、2年生は平日はすべて授業があると思う。テストの前の平日と指定するのは、今年大丈夫でも、来年、再来年と細く長く続けるということを受け継ぐのはかなりハードルが高い。大学の授業がない夏休みであれば、先輩から後輩に受け継いでいくのは学校応援団の取組と関連するところもある。

委員： 年間通して予定が出ているので、それに合わせて声をかけて、大学生が来る日と来ない日をあらかじめ生徒に伝えておけば問題ないと思う。取り組みとしては大学生がいた方が、中学生のニーズには応じられると思う。塾ではないからマンツーマンでずっと教えるわけではないが、どうしてもわからない子は手を挙げてもらって、大学生がわからなかったら職員室に来てもらえば良い。取り組みとしては面白い。例えば、3日間のうち1日だけ大学生に来てもらうとか、減らしても良いと思うがもったいない。

委員： 大学生は後半が忙しくなると思う。年間通してとなると、前半の中で日程を決めて声をかけて来てもらうのが良いか。また、休みの日に交流できる取り組みができれば今後繋がっていけると思う。

委員： 年間通して議論していければ良いと思う。1学期末の6月23日からやってみれば、それを踏まえて議論できると思う。

委員： それこそ、ペンキ塗りに来てくれた大学生に声をかけてみることもできる。

委員： 声をかけられる卒業生は何人くらいいるか。

教員： その学年の取りまとめをしてくれている子がいるので、3クラス87人いる。

委員： 6月に実施すれば、次回の会議にその報告ができる。

委員： できれば、夏休みに何かできれば良いと思う。先輩が後輩に話をするなど、講話ができたかどうか。自分の学校を卒業した先輩が今やっていることを聞くのは子どもにとっても保護者にとっても興味深いと思う。

委員： 先生から大学生に声をかけてもらって、放課後ステイルームや夏休みをどうするか次回報告してもらって、卒業生、保護者、地域の方とどう関わっていくことが必要か、一般論も含めて協議を深めていこうと思う。

(3) 令和4年度の取組について（分担、内容、スケジュール等）

委員： ペンキ塗りと放課後ステイルームの方向性が決まれば今日のところは大丈夫
だと思ふ。次回以降は、地域の方、保護者、教師と保護者の会の在り方も議題に
していきだ。い。

委員： 予算について、ペンキは余っているものを使うが、消耗品は学校から出せるか。

校長： 学校で行う活動に必要な消耗品、放課後ステイルームの謝礼については、学校
に配当されている予算の範囲内で対応する。